

はたらき人

沖縄信徒聖書学校
沖縄聖書神学校

沖縄県那覇市首里石
嶺4-356(〒903)
事務局
聖書学校
電話(098)937-8988
神学校
電話(098)884-4391



沖縄信徒聖書学校
校長 松田善弘

福音の前進に役立つように

さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたに知らせてもらいたい。
(ペリピ一：一二)

御卒業おめでとうございます。二ヶ年の学びを終え、これから、それぞれ遣わされた地域社会での福音宣教に、あなたがたの情熱と愛をもって全力を注いで下さい。二ヶ年の学びは、決して長い期間ではないが、信仰生活においての主との交わり、同じ聖書信仰に立つ兄弟姉妹との交流・超教派の教授方との懇談等を通しての収穫は決して小さいものではないと思います。本校での学びは、再臨のキリストの花嫁としての準備がなされたものである。パウロがよく好んで用いた言葉に「キリスト者はキリストの兵士である」、戦場における兵士は、

彼の属する指揮官に絶対服従である。

皆さんは本校において二ヶ年、予備軍としての学びを終え、これから実践の場、伝道に送り出されるのである。よく学ばれた方々は戦場で、それを遺憾無く発揮することが出来るものと信ずる。

前線の兵士達の前方には、どのような危険物や障害物があるか知りませんが、それを取り除く事も兵士の役目・務めなのです。

我々の住む社会は決して主イエスを素直に受け入れる状況ではない。そうした社会のあらゆる障害物を取り除く役目を担っています。そして新しい宣教活動の道を開墾しなければなりません。

「前進とは、プロコーベンと云うギリシャ語が用いられているが、まさしく兵士が進行しようとしている前に置かれた障害物を取り除くことである。

或る時には作戦上、後退しなければならぬ事もあるかも知れないが、それは前進するためである。手を鈍らなかけ後を見るのではなく、前進し、まだ耕していない畑をよく見つけて行動しなければならぬ。

或る著書の中に一人の少年が有名な天然記念物の岩に登り、自分の名前をその岩に刻んで、いざ降りようと下を見たら恐ろしくなり足がふるえた。その時彼は突然「下を見るな。頂上に登るんだ」と叫ぶ声を聞き、とっさに頂上に登る事が助かる唯一の道だと選択し上へ上へと登った。頂上を目指すことは勇氣の入る事ではしたが、下へ降りることは、もっと大変で、身を破滅する危険性があった、とのこと。私達の逃げ場、隠れ場所は常に上にあります。四方から押し寄せても上があいいます。私たちは、私たちの生涯を主に捧げたのではないのでしょうか。御健闘をお祈り致します。



「沖縄を世界宣教発信基地へ」



沖縄信徒聖書学校
理事長 折田政博

一九九四年春に、沖縄信徒聖書学校十九期生七名と第一期の沖縄信徒伝道者養成コース八名の卒業生を伝道戦線に送り出しました。二十一世紀を手のとどく処において、私たちは夢とビジョンを持って、「沖縄を世界宣教発信基地へ」と熱心に祈る者にならせて頂きたいと願っています。

かつてジョン・ウエスレーは、「世界はわが教区」と世界宣教の夢と幻をもち、メソジスト運動は世界的広がり成長しました。アメリカでは、バプテスマ運動が世界最大の伝道者ビルー・グラハムを生み出した。

今世紀末にペンテコステ運動が生まれ、会員七十万人をもつ教会が韓国に育っています。この三つの流れをみる時、徹底的聖書信仰・徹底的祈禱運動、徹底的信仰と献身運動の共通点もついています。そして忘れてはならないのは、聖書の働きを不可欠としています。

沖縄信徒聖書学校は、創立二十五年を迎えようとしている時、次の五つを心に留めたいと思います。
(1) 世界は我が教区と世界宣教の夢とビジョンに立つことです。神は、夢とビジョンの人を祝福して、用いて下さいます。
(2) 徹底的聖書信仰に立って、福音を宣べ伝えることです。昨日も今日も変わることのない、イエス・キリストは、世界の「主の王」「王の王」であり、神の栄光をあらわす教会と、キリストの弟子を育成することです。
(3) 徹底的祈禱運動の成果として、教会成長があることを信じて祈ることで、二にも祈り、三にも祈ることです。ヨシユアはモーセが云ったとおりにして、アマレクと戦い、モーセとアロンとフルは、丘の頂に登って、祈りの戦いをしました。
(4) 徹底的信仰と献身活動ムーブメントが大切です。「まず神の

国と神の義とを求めること」「こゝに私がおります。私を用いて下さい。」「と積極的姿勢をとることです。ヨナをみても一度失敗しましたが、魚の腹の中で悔い改めたヨナを、二回目のチャンスを与えて下さった神のあわれみを信じて天の窓の開かれることを期待することです。
(5) 最後に、聖霊の働きが、最も力強く悪の働きに勝利すること。聖書と現実から学び取らなければなりません。私達のこれまでもついていた教理と経験と信仰の「ワク」に現定すべきではありません。聖霊の働きが、サタンに働く世界に挑戦する力を提供して下さいと信じて、聖霊の満ちしを祈り求めなければなりません。一致して戦うためにも、聖霊の助けなしには出来ません。今は、「聖霊時代」です。
「イエスは彼らにこう云われた『全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。』…わたしの名によって、悪霊を追い出し…病人に手を置けば病人はいやされます。』」
(マハコ16の15-18)
「沖縄を世界宣教発信基地へ」いざ行かん！

新理事会スタート

一九九三年度の第二〇回定期総会において選出された新理事会は次の役割分担をもって、四月よりスタートいたしました。

◎新理事と担当

理事長 折田政博 牧師
副理事長 国吉 守牧師

信徒聖書学校担当理事

松田善弘 牧師(校長)

新垣宗昌 牧師(事務局)

当路由正 牧師(財務)

国吉 守牧師

齊藤清次 牧師

神学校担当理事

渡真利文三 牧師(校長)

安里嗣昌 牧師(事務局)

古堅宗伸 牧師(財務)

宮村武夫 牧師

喜友名朝英 牧師

土地建物取得委員

渡真利文三 牧師

喜友名朝英 牧師

※協力献金・特別献金は左記へ

・沖縄信徒聖書学校 当路由正

琉球銀行那覇支店

三〇七-三六六八八七

・沖縄聖書神学校 古堅宗伸

那覇市首里山川一七

入学おめでとう

一九九四年度入学生

四月五日、次の一〇名の兄弟姉が第二期生として入学いたしました。

- 大滝千佳子(那覇隣人)
- 金城正秀(礼邦バプテスト)
- 天願悦子(首里福音)
- 当銘由祈子(聖心)
- 渡真利優子(〃)
- 仲宗根直子(〃)
- 中松さゆり(首里バプテスト)
- 永吉正代(礼邦バプテスト)
- 宮里美智代(那覇バプテスト)
- 仲吉幸子(那覇バプテスト)

☆ 中村 さゆり

中学一年の時にバプテスマを受けましたが、しかし、安定性のない信仰生活を送っていました。しかも人間関係でも悩んでいました。自分の力ではどうすることもできず、また誰かに相談することもできず、神と向きあって祈りました。また聖書といろんな本をむさばるように読みました。その時、今までの私の心の持ち方・名前だけの

信仰生活では神の栄光を現わすことはできない。信仰生活とは、神への賛美・聖書を読み・祈り・おかしをし・服従することだと教えられました。神の御言によって霊的に成長していかなければならぬと思いました。そこで、聖書をただ読むだけでなく、教理的にも、実践的にも訓練された信徒として、社会にあっても、教会にあっても神の栄光のために奉仕できれば幸いと思い入学する決心をしました。

☆ 金城 正秀

七年前にバプテスマを受け、四五年は、忠実な僕として教会生活を送っていました。しかしそれはうわべだけの信仰生活でした。愛もなく、感謝の心もなく、高ぶってばかりいて、教会内でも不平不満ばかりで、栄光は我ものの生活でした。そして教会のみならず祝福された結婚も破れる結果になりました。自分のおろかさ、自我

の強さ、罪の大きさを思うと、ユダ以上の罪人です。しかしイエス様は、祈り求めたとき解決を与えて下さいました。今も生きて働いて導いてくださるイエス様とともに働きたい、多くの人に福音を伝えたく、学ぶ決心をしました。

☆ 天原 悦子

昨年八月、倦怠感・背部痛・胃部痛・便秘等を主症状に発症し、受診。当初肝内結石と説明され、肝臓を一〇日程切除する手術の予定で九月開腹しました。結果は肝臓癌が腹膜、腸間膜に転移し手がつけられない状態にあり、すぐに閉じたのでした。そのことが知らされた時、「天国に行くんだ」という思いと、子供達のことを思い涙がこぼれました。しかし主は「子供達のこともすべて私にまかせなさい」という思いを与えて下さり、その後平安な療養生活を過ごすことができました。ベッドの上で祈る回数もふえ、私は隣人にイエス・キリストが救い主であることを伝えてこなかったことを思い、「いやして用いてください」との祈りに変わりました。牧師先生や兄弟もひっきりなしに来て

下さって、証しや力強いやしの祈りをして下さり、私もいやしの確信を得るようになりました。苦痛を伴う治療に対して主は平安という祝福を与え続けて下さり、主の御臨在を何度も確認することができました。

主治医は、病状が悪化するれば一ヶ月も生命は維持できないでしょう。時間を有意義に過ごすために外泊し家族との交流をもつた方がいい、とすすめられ、挑液チューブや点滴をさげたまま外泊するようになり、日曜礼拝に出られるようになり、体力を整えて下さいと祈り、牧師も「今神様が喜ばれることは礼拝に出席することだ」とすすめて下さり、チューブをさげたまま車イスで礼拝出席が実現できました。礼拝出席にともない体力も回復し、やされたいくことが実感できるようになりました。医学的にも経過良好というコメントを得ることができました。十二月軽快退院、その後、二回入院を繰り返えし、抗癌剤の治療を受けていますが全く経過良好とのことです。



今後の活躍に期待

一五名の兄弟卒業

去る三月二七日、第一九回卒業式が行われ、第一九期生七名・信徒伝道者養成コース第一期生八名計一五名が卒業しました。今後牧師を助け、伝道と教会形成に励まれるよう期待されます。特に信徒伝道者養成コースを修了した兄弟姉がそれぞれの教会で信徒伝道者として認定され活躍されるよう大いに期待されます。

第一九期生

- 大城恵子(那覇ナザレン)
- 慶田花民子(那覇バプテスト)
- 金城暁子(豊見城神の教会)
- 谷口まゆみ(那覇ナザレン)
- 平安座 修(具志川福音自由)
- 又吉弦貴(那覇バプテスト)
- 小那覇美智子(〃)
- 信徒伝道者養成コース一期生
- 翁長桂子(那覇バプテスト)
- 瀬良垣悦子(星の子学園福音)
- 平良康子(宜野湾ナザレン)
- 玉寄長勇(真栄原キリスト)
- 福里盛雄(沖繩天久神の教会)
- 福里よし子(〃)
- 当銘由盛(城間ナザレン)

当銘 澄(城間ナザレン)

☆

平安座 修

短い期間であったが、多くの御言を学び、以前より聖書を深く知ることができたと思います。特に聖書全体がどのように構成されているかという学びは印象的でした。

☆

大城 恵子

持病のヘルニア、転動による業務多忙のため、何をやめようかと思ったばかりかもしれません。学友の電話による励ましと神様の愛により無事卒業できました。学びをして変わったことは、聖書を読み、デイポーションを真剣に実行しはじめたことです。

☆

金城 暁子

東京から沖繩の地へ来てすぐ、何も分からないまま「学びたい」という思いで入学させていた

だき、家族の励ましと先生方の熱心な講義、熱意に支えられ、その上、主の限りないあわれみによって二年間学び続けることができました。したことを心から感謝いたします。

☆

谷口 まゆみ

二年間、学校へ行く時間がいつも守られてきた。思いわずらうところがあつた、偶然授業でそのことについて励まされたり御言が与えられたりした。いろいろな教会の牧師先生から、またいろいろな教会の方と学ぶことができ、恵みでし

平良 康子

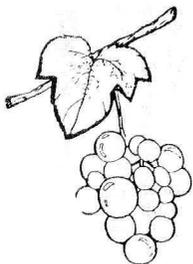
一年コースのこでの学びは、四つの法則、リーダー養成、伝道者の心得で、どの科目もこれまでになかったような大切な学びでした。楽しい学びでした。みなさんもっと授業を続けてほしいという思いでいっぱいです。

☆

福里 盛雄

信徒伝道者養成コースにおける学びは、自分の今までの信仰生活に活を入れる機会となりました。

①神に対する信頼度を高めたこと。②信徒生活の厳しさ。③神の真理に対する確固たる宣言。④信徒の真価は信仰に基づく行動であること。⑤説教の難かしさと純粋さ等。



第19回卒業式

